

高品質の葉取らずりんご生産要因

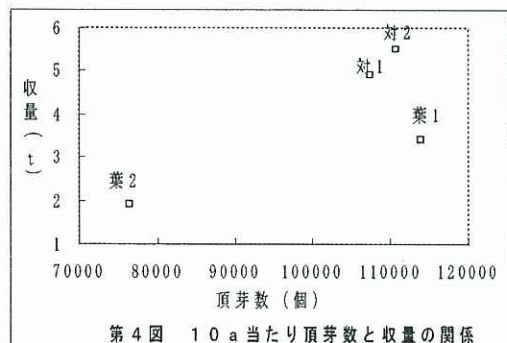
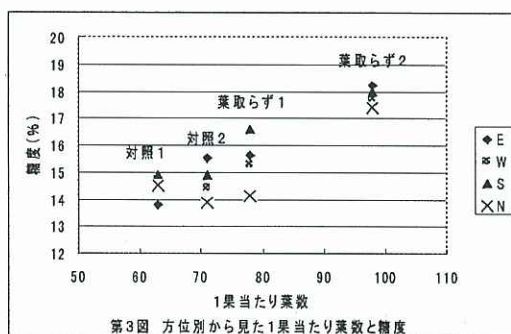
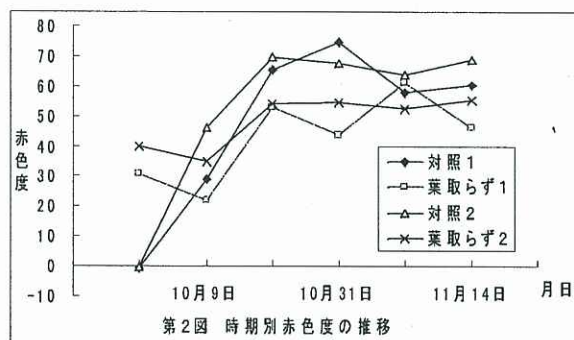
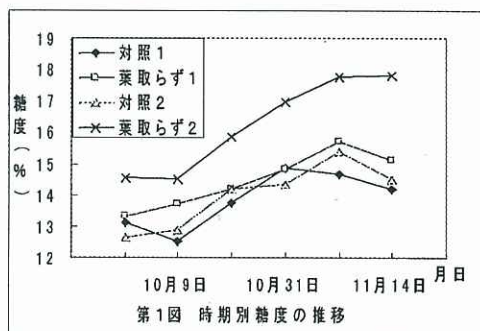
研究のねらい

近年、労働力不足に対応するため、葉摘み作業を行わないりんご栽培が一部で実施されている。この栽培方法は食味の良い果実生産をねらいとするが、単に葉摘み作業を省略しただけでは食味の良い果実を生産できるとは限らない。そこで高品質の葉取らずりんごを生産するための要因を明らかにする。

研究の成果

高品質葉取らずりんごを生産するためには樹勢がやや弱めで、頂芽数がやや少ない樹相（枝の量が少なくて光の透過が良好）が望ましい。また、まんべんなく光が入るような成り枝の配置をして、光り環境を向上させること、1果当たり葉数を多くすることも高品質生産要因の一つである。なお、収量が3～4トン必要なことから、頂芽数を約9万芽程度にすべきであると考えられる。

主要な試験データ



発表資料

1. 長内敬明 (1998). りんごの葉取らず樹と葉取り樹における葉面積指数(LAI)と品質及び収量との関係. 園学要旨(東北): 9-10.
2. 長内敬明 (1996). 葉取らずりんご栽培園の実態調査. 青森農業 47 (9): 64-66.
3. 長内敬明 (1998). 葉取らずりんご栽培に適する樹相. 青森農業 49 (9): 66-68.